



ご あ い さ つ

チッソ旭肥料株式会社 富士正克
常務取締役

新年明けましておめでとうございます。年頭に当り皆様方のご多幸をお祈りするとともに、新年のご挨拶を申し上げます。

世界的な肥料の需要増大と市況回復のなかで、わが国肥料業界は新年を迎えました。

米作減反を契機に漸減傾向にありました国内肥料需要も、45肥料年度を底として増勢に転じ、46肥料年度には若干の増加を見るに至りました。米作減反ショックも癒えて、農業の新しい生産秩序の確立を目ざす、農家の探求が始まったと云えると思います。

ここ1、2年続いた肥料メーカーの、いわゆる「脱肥料化現象」は、基調としては変らぬものの、一応、一段落したと思われまじし、本年は全体として上向き肥料需要が望めるものと思います。

しかしながら、わが国経済の実質成長率が年率10%程度と予想されるなかであって、肥料の国内需要は、最も伸び率の高い高度化成においてさえ、その半分以下しか期待できぬことも事実であります。

ここ1年、化学、鉄鋼等を中心とするわが国の「装置産業」は、構造的な不況産業として苦汁をなめてまいりましたが、きびしい生産制限を通じまして、最近に至りようやく市況も回復しつつあります。とは申すものの、いかに肥料業界が全般的に増勢傾向にあるとは云え、ただ量のみ追求することは困難になりつつあると云えまじょう。

流通、販売、生産面でのきびしい合理化を進めるなかで、量より質へのウェイトを高め、業界自体の体力を涵養(かんよう)し、農業経済への貢献を期さなければなりません。

当チッソ旭肥料(株)も創立後満3年半を経過し、お蔭をもちまして業績は順調に推移してまいりましたが、本年は、ただいま申し上げましたような考えを基調とし、次のような点に傾注する所存でございます。各位の切なるご指導を賜りたいと存じます。

まず第一に、CDU化成を更に一層普及致すことであります。

本肥料は当社技術陣多年の研究努力によりまして、緩効性窒素肥料としてのCDU本来の特性を一層強化致しまして、肥効発現期間の大巾な延長・効率化を具えました新製品の開発も進んでおります。本年は、このような成果をフルに発展させ、施肥の合理化、作物の品質向上のお役に立ちたいと考えております。

一方、燐硝安加里は、他社には類のないすぐれた特性によりまして、需要は継続的に拡大し続けております。しかしながら、農業生産構造の質的な変化は、この肥料の、一層多角的発展と展開を期待しているように思われます。すなわち液肥或は、有機入り燐硝安加里の開発と展開が、それでありまじょう。

装置産業である以上、量への追求は私共にとって不可避の要求ではありますが、新しい農業が指向する方向にそった肥料—CDU化成と燐硝安加里の生産・販売を、より合理的に集中すること—これを本年のモットーとしてまいりたいと考えております。

いささか蕪辞を述べ、年頭のご挨拶と致します。